



安田校だより

やさしく すこやかに だれもがまなびあう 安田小

令和2年6月19日
文責 校長(梅田)



1学期も折り返しを過ぎました

5月18日(月)から、平常の授業に戻って1か月、教室や校庭では子どもたちの元気な声が響き、学校も例年とおりの姿に戻ったように感じます。しかしながら、新型コロナウイルスの脅威は、常に隣りあわせですから、学校でも感染防止に細心の注意を払いながらの日々が続いており、様々な校外活動をはじめ、親子運動会・プールの使用や授業参観の中止、5年生の宿泊学習の延期、陸上大会や連合音楽会の中止など、その影響は大きくなっています。

そこで本校では、「施設・設備の定期的な消毒」「3つの密にならないような配慮」「給食時・登下校時の指導」「児童の体調の把握」「手洗い・咳エチケット、マスク着用等の指導」を続けるとともに、6月末までは原則として、「全校児童が室内に一堂に会する状況は作らない」「外部の方が来校し校舎内で行う活動はしない」という伯太町内の小学校の共通した対応を続けています。

ただ、私たちは「できなくなったこと」を悔いてばかりいるのではなく、この状況を受け入れ、この状況だからこそできることに取り組んでいます。例えば子どもたちは行事や慣例的な活動に追われることなく、じっくりと学習に向き合うことができ、教師も出張や研修がなくなって生じた時間を、授業の準備と子どもたちに向き合うことに費やすことができている。災いをいかに福に転じていくか、工夫しながらの今年度になると思います。



ふるさと学習

今年度は、安田や伯太町を教材にした学習や体験活動をすることが大変難しい状況になっていますが、それでも、安田交流センターを始め地域の方々が、様々な工夫をして協力してくださっています。地域の方と触れ合うふるさと学習は、「ふるさと安田」のよさを感じたり人の生き方を学んだりする、貴重な体験の場になっています。

【米作り活動：5年生】

今年は例年の様に、地域の方々と田んぼで田植えをすることができませんでしたが、八幡館長さんのお世話で、宇名手さん・おだけ(株)の稲田さんにご協力いただき、5月25日(月)と28日(木)に機械を使っただけかきと田植えを見学させていただきました。機械が目前で活躍する姿は魅力的だったようで、子ども達は食い入るように見つめていました。田植え見学の後には、子ども一人一人が、マイ「バケツ稲」を植えました。JAの三原さんたちに、安来市の米作りの現状についてクイズ形式で教えていただいたり、苗の植え方を教えていただいたりし、楽しみながら学ぶことができました。

これから子どもたちは、農作業の工夫等について詳しく調べたり、田を見学したり、責任を持ってバケツ稲を育てたりする活動を通して、重要な第一次産業である稲作について学習していきます。たくさんの方に支えられていることに感謝して、しっかりと学んでほしいと思っています。



【子ども農園：全校】



今年も、細田さんを中心に、八幡さん、大西さん、船越さん、高橋さん、小林さん、松本さん、多久和さん、宮本さんにお世話になり、学校前の農園の耕運やマルチかけ、水の準備をしていただきました。みんなでイモ苗を植え、各学年、がんばって水やりをしています。



校内マラソン会

6月9日(火)に、今年度初めての「校内マラソン会」が開催されました。4月の第1回目が中止になり、今回の第2回目も、中止となった「親子運動会」の競技種目として計画されていましたが、ようやく開催することができました。マラソン会の練習となる「ランランタイム」も、最初はマスクを着用してジョギング程度で始まりましたが、だんだん平常の学校生活を取り戻してきて本格的な走りになっています。

1・2年生は校庭2週(400m)、3・4年生は3周(600m)、5・6年女子は4周(800m)、男子は5周(1000m)を、参加者全員、全力で走り切りました。ほとんどの子が練習よりタイムを伸ばしたようです。保護者の方々の応援も力になりました。ご都合のつく方は、次回も応援よろしくをお願いします。



なかよし学級の「ものづくりチーム」創業

なかよし学級が、「学校のみなさんからの注文をうけて、ものづくりや、いろいろな作業なんでもやります」というチームを立ち上げました。チームメンバーは、5年生のキャプテン、3年生の副キャプテン、選手(担任)の3名です。

創業してすぐに、キャプテンと副キャプテンがセールスに来たので、「すてきな校長室の看板をつくってほしい」と発注したところ、1か月後に、写真のように、焼杉に彫りを入れた素敵な看板を納品してくれました。なかなか渋くてかっこいい看板で、二人も自信満々でした。これから、たんぼぼ学級の力も借りて、学校の子どもにも先生方にも喜んでもらえるような作業やものづくりに励んでほしいです。



令和2年度から「キャリア・パスポート」の活用が始まります

○「キャリア・パスポート」とは

一人一人の児童生徒が、自らの良い点や成長を積極的に自己評価し、記録を残し活用するため、学習したことの意義を実感できるように工夫されたポートフォリオ(書類カバン・ファイル)です。

○「キャリア・パスポート」の意義

＜児童生徒にとって＞

学びを記録し蓄積することで、各教科の学びと特別活動における学びが往還し、自己のキャリア形成につながります。

＜教師や保護者にとって＞

記録・蓄積したものを通して、教師や保護者が児童生徒と対話することができます。

＜学校にとって＞

各学校(小・中・高)の各段階における学習や生活を振り返って記録・蓄積することで、発達段階に応じた系統的なキャリア教育ができます。